

## YCU REUNION SDGs セミナー12月15日【ご報告】

講師: **林田光弘さん**(長崎大学核兵器廃絶研究センター特任研究員)

テーマ「戦争と平和」「被爆者」

タイトル: 被爆者は私たちに何を訴えているのか～「平和」とは何かを立ち止まって考える

キーワードは、「広島・長崎」と「戦争」が切り離されている、「人間の尊厳を奪われた」被爆者、「戦争に勝者も敗者もない」などいくつかありました。

林田さんは長崎市内に住む父方の祖父が被爆者。高校生の時、平和大使として国連欧州本部を訪問。NPT(核不拡散条約;2021年1月に国連で批准)の再検討会議でも国連を訪問。その後、被爆体験を伝えたいと国際平和研究所のある明治学院大学(横浜市)に入学し、核兵器を専門に研究する先生に学んだそう。2016年には被爆者国際署名運動キャンペーンで広報リーダーを担当。

現在は、原爆(=戦争)がどういうものであるかを一般の人々に伝えるために原爆投下前と投下後の写真を集めているそうです。

「次世代の人たちにも被爆前の街並みや建物、そこで暮らしていた家族を見て、自分たちと変わらないという共感を得てもらいたい」と話します。

### 【影響を受けた人】

「赤い背中の少年」と呼ばれた谷口稜嘩(すみてる)さんの生き方は林田さんに大きな影響を与えたようです。谷口さんは、裸になると、背中は皮膚移植でつぎはぎだらけ、前はあばら骨がない部分があり、内臓が透けて見えていたそうです。谷口さんは、話をちゃんと聴く生徒ばかりではない修学旅行の一行に、話し続けたといいます。林田さんは「谷口さんは、そういう身体で恋愛もし、就活もし、仕事もしてきただろう。深い悲しみや悔しさ、大きな不安があっただろう」と共感し、強い衝撃をうけたといいます。

谷口さんは「私たち被爆者が一人もいなくなったときに、どんな形になっていくのか、それが一番怖い」と言われていたそうです(2017年亡)。林田さんは谷口さんの後を継ぐように活動を展開しています。

### 【広島・長崎は、戦争と切り離されている】

「原爆は平時のある日ある時、突然空から降ってくるものではない。そのとき日本は戦争をしていた」のだということ。(山川剛『希望の平和学』)しかし、現実には「広島・長崎は、戦争と切り離されている」と林田さん。

皆が一様に始めた戦争なのだから皆が等しく受任しなければならないという(国の)姿勢があり、その姿勢に抗う被爆者は、一貫して原爆を戦争と結びつけて考えてきた。現実には「被爆者が

被爆者として生きることが辛い」社会。結婚差別や、子どもの就職差別も。しかし、人間の尊厳を奪われた人々は、「(被爆という)源流から抵抗へと飛躍」した。その行動を学術的な面から支えた人(石田忠 2011 亡)もいる。

被爆者たちは自分たちの被害を、「人類の被害」と考え、反核・反戦の意識に繋げていったそう。しかし、行動した人は少なく、語り部となった人は被爆した約13万人のうち約100人(約0.8%)。伝えることは難しい。人類の被害として伝えても「何を言ってるんだ!」と、受け止められる。しかし、伝えていくことは大切。

### 【被爆者の苦悩】

被爆者健康手帳を持っている人、あるいは手帳を持つようとする人は、自分があの時、あの場所にいたという証明が必要であり、訴訟もしないといけない。闘わないと手帳がもらえない人の数は、1980年は37万2264人、2019年は12万7755人だった。科学的に被爆者であるという立証も困難であり、大きな心の傷もある。約3/4の人は健康や子孫への不安を抱えている。しかし、2世、3世への影響はまだ分からないのが現状だそう。

〈福田須磨子「ひとりごと」平和の象徴、平和記念像が立った1955年に詠まれた詩〉

何もかも嫌になりました  
原子野に屹立する巨大な平和像  
それはいい、それはいいけど  
そのお金で何とかならなかったかしら  
石の像は食べぬし、腹の足しにならぬ  
さもしいといってくださいますな  
原爆後、十年をぎりぎりに生きる  
被爆者のいつわらぬ心境です

※当時、被爆者に対する法律的援護は全く設けられていなかった。被爆による病気や外傷でさえも被爆者自身が全額負担する必要があった。(Wikipedia より) また、GHQ の言論統制によって 10 年間は物言えぬ状態だったという背景もある。

### 【偏見】

同窓生 N さんのコメントの中に、市大に入学(昭 38 年)しても自分が広島出身であることは怖くていえなかった、その頃は広島に対する偏見が怖かった、今でも「広島出身」を背負いながら生きているとの発言。現在も偏見はあるのか?

林田さんは、1980 年代にはまだ就職差別があったし、90 年代には被爆 2 世との結婚が取りやめになった例もある。昔に比べれば減っているが今でも根強く残っている。原爆は結果的に浦上地区に投下され被害のほとんどは浦上地区にある。市街地は大きな被害を免れた。長崎

では浦上地区の人たちへの偏見が強く長く残っている。しかし、一旦長崎を出ると、長崎出身者への偏見に晒される。数字では示されない事例だが、これも原爆の被害。差別構造の中で生きていかなければならないという現実を知っている人は、ほんの一握りだとのこと。

#### 【伝えることの難しさ】

平和祈念館などを訪れ、戦争体験者の話を聴いて、「戦争は絶対にダメ」と学ぶ。しかしそれは、結末を知らされた映画を繰り返し見せられているようなもので、少々辟易するのではないか。「そんなこと言われなくても分かってるよ」と。戦争体験が教訓として受け止められず、“戦争は絶対にダメ”というテンプレートとして意識されている。

「戦争は繰り返さない」とばかり言われてもリアリティに繋がらない。

そんな中で被爆者は闘ってきた。

#### 【戦争の記憶の仕方の違い 日本vsドイツ】

ドイツは、アウシュビッツが連合軍によって解放された日(1月27日)と、ナチス内閣が発足した日(1月30日)、つまり加害の記憶を持ち続けるための記念日としているのに対して、日本は、広島・長崎の原爆の日、8月6日と9日、つまり被害の記憶を忘れないための記念日としている。市大 Y 教授は、学生たちとの合宿をアウシュビッツにしている。Y 教授は、年々、若い人の認識が薄くなっていると感じています。

「記憶の継承を体験者がやっていくのが難しくなっている。若い人がやるしかない時代、林田さんのような人は貴重だ。大学教員も何かすべきだと思っている。林田さんに講義をお願いしたい」

Y 教授に林田さん

「当事者以外がどのように伝えるか、いろんな場面が想像できる。ポーランドやドイツでは、学術的な面ではなく、市民レベルではどのようにしているのか教えていただきたい」とコメントされ、今後、情報交換されるでしょう。

#### 【戦争には勝者も敗者もない】

捕虜収容所にいた外国人が原爆の犠牲となっている。井原東洋一(とよかず 2019亡)は慰霊碑を立てた。加害に対して何かやることは難しいときであったが、そこから数か国(オランダ人、イギリス人を含む)の人々との交流が生まれたそうだ。経緯については、こちらを参照してください。

[https://www3.nhk.or.jp/news/special/senseki/article\\_51.html](https://www3.nhk.or.jp/news/special/senseki/article_51.html)

井原東洋一氏のインタビューより

「加害の歴史を無視して被害は語れないんです。私もあちこちの国々に行って原爆の被害の惨状を語ってきましたけれど、それだけでは相手に伝わらない。当時の誤りをちゃんと認めて、私たちも反省すべきだという意味を込めて、この石碑を作ったわけです」

### 【若者たちの活動】

若者たちの繋がりでの平和運動

・Know Nukes Tokyo(広島・長崎出身の大学生)

議員ウォッチのサイトは全国の都道府県で活動。

<https://www.know-nukes-tokyo.com>

・平和教育としての新しい形としての長崎大学の Peace Caravan 隊。小中高に出かけている。ここでは 10~20 年後の平和学習の担い手をそだてている。

<https://peacecaravan-net.amebaownd.com>

・林田さんが行っている「みんなの平和学習会」

毎月9日、平日なら午後 7 時から(休日なら 3 時から)。原爆の被害を知りたい人、被爆者の話をじっくり聞きたい人向けで、平和教育についての内容もあるそうだ。

<https://nordot.app/830253819564933120>

・カクワカ広島(核政策を知りたい広島の若者有権者の会)

<https://kakuwakahiroshima.jimdofree.com/>

### 【核拡散防止条約(NPT)と核兵器禁止条約】

以下、O さんの質問に対してお答えいただいた内容

NPT は、1970 年に発効、アメリカを含む5か国は核保有、他は保有不可能、ただし代わりに核の平和利用は可能とした条約。一方、2011 年から核兵器を使われた人の人権はどうなるのかという議論が始まった。人間の安全保障の文脈の中で被爆者に対する人道的な責任を棚上げにはしていないかという論点が核兵器禁止条約の中心となっている。国連を中心に人類が築き上げた権利の延長線上に核兵器禁止条約があることは大事なポイント。そうすると、SDGsや気候変動などとの繋がりも見えてくるのではないかな。

〈参考〉

核兵器禁止条約は、開発や保有だけでなく、核による威嚇を含む一切を禁じる。核拡散防止条約(NPT)の下で核軍縮が滞る現状への異議申し立てだが、NPTを否定するのではない。補完し、核廃絶を前に動かそうとするものだ。(信濃毎日新聞 2021.12.22)

これより参加者のコメント

### 【文科省指導要領では】

中学校で地理を教えている K さん

若い人が政治家にインタビューなど、素晴らしい活動をされている。歴史の授業では古代からスタートするので近現代をやるときには授業時間が不足しているとお話があったが、小学 6 年生の文科省指導要領では 2020 年から歴史学習が先ではなく、政治学習が先になっている

ので、日本国憲法の成り立ちや意義についてももしっかり学べる。そして、(歴史では戦争の)「加害」についても触れていくと書かれているので期待している。

ある先生の平和学習をどうやるかの質問に、8月6日と9日に登校して勉強しては？と提案したが実現しなかった。イデオロギーの面になると保護者らも心配するので、非難の応酬にならないように教員が教えていくことが大事。

#### 【平和学習に取り組む同窓生】

2005年「世界平和メッセージ」8000人のコンサートが広島であった。小澤征爾や日野原重明、吉永小百合などが登場。Nさんは、そのコンサートにみえていた小澤征爾の兄、小澤俊夫さん(筑波大学名誉教授、口承文芸学者、昔ばなし大学主催)に師事し、勉強したあと、金融関係の主な仕事の他に、昔話の伝承をやってきた。今でも、兵庫県西宮市で昔話+広島の原爆の話をしている。きっかけは、そのコンサートだったそうです。

#### 【戦争という文脈の中で原爆を捉える】

愛媛県の今治空襲の翌日に広島で原爆が投下され、「きのご雲を見た」という人もいた。Tさんは、テンヤンから来たB29の搭乗員を突き止め、招聘し学生と交流する機会を得た。その後も平和学習を続けているが、今、若い人が継承することが大事だと思っている。

〈参考〉

8月6日、原爆を搭載したB29(エノラゲイ)はテンヤン島を立ち、硫黄島を経て広島へと来るのだが、西宮、今治、宇部を迂回(略)

<https://blog.goo.ne.jp/youtontonjp1963/e/921606564e2bf65fc1eda0f9e23447d1>

#### 【地球規模の免疫ネットワークを元気にする】

現状は、人間の愚かさが伝わっていない。核を持たないで軍縮していくことの重要性がある。(略)地球、平和、環境は、ネットワーク的に繋がっている。これを維持するためには「免疫」理論が重要。病気やケガなどから体を守る免疫はネットワーク的に働いている。免疫機能のように、いま地球で何が課題なのか調査し、考えて、分かって、共有化しなければならない。その後は繋がって動き出すというところまでいかなければならない。林田さんは、最後の段階の「動き出す」ところまで行っている。

市大同窓会はこれから動き出そうとしている。

#### 【想像することの重要性】

平和学習としてなかなか伝わらないのは、聞く人の想像力が十分ではないからかもしれない。想像力を養うために、戦争の展示を見たり、聞いたりすることが大切ではないか。

【メールで寄せられたコメント】

○林田さんは父方の祖父が被爆者と仰っていましたよね。そう言えば、私の父は戦争中に米軍の潜水艦に撃沈された対馬丸の遺族なのですが、私も沖縄に居た頃は慰霊祭等に出席したりしていました。その後は同化されたというか、関東に住んでからは特に活動はしていませんでした。FB 等で繋がっている沖縄の若い方々は祖父の思いを受け継いで活動を続けています。特に親川志奈子さんは国連へ行ったり、『世界』に寄稿したりと発信し続けています。  
<https://www.facebook.com/shinakosan>  
私たちの世代とは意識が違うというか、行動力が素晴らしいです。

○永遠の人類のテーマ、戦争と平和。現下の原水爆・放射能の怖さ、未来の核兵器戦争の脅威を感性(語り部)の立場から広く深く継続研究されている林田講師の地道な研究・実践報告は大変有意義なものと思いました。

○今日のお話で何故、被爆者に対して自分の思いが甘いのかを整理できたように思います。私の旅の中では「反戦」というキーワードが有ってその視点で国を選び、旅を続けてきたのですが、まだ整理しきれていませんでした。今日、新たなキーワードを頂けたように思います。自分の考えがまだまだ整理しきれていないのは未熟だからなのだな～とは感じているのですが、新たな課題を頂けて良かったと思います。

【事務局より】

皆さまには、ご参加、質問・コメント、メールたくさんいただきまして、感じたことも多くあります。真剣に受け止めていただきまして、ありがとうございました。

戦争について考えるために、見学会を行いたいと思います。ご関心のある方はご連絡ください。場所や日時などご相談したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

✉ [ycureunion@gmail.com](mailto:ycureunion@gmail.com) (西尾あて)